



NEWS LETTER かながわ

2016年度第2号(通巻第20号)

2017年2月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail:jacdpkanagawa@gmail.com

巻頭言

神奈川支部長 久保山茂樹

「共生社会の担い手を育てるということ」

「おーい、〇〇くん、お帰りの時間だよー！」というクラス全員の声が園舎に響きわたる。〇〇くんが支援員の先生と手をつなぎながらクラスに戻ってきた。クラスではみんなが大好きな音楽遊び。〇〇くんはちょっとやったり、ながめたり。みんなで思い思いに楽しんで、さようなら……私がお世話になっている幼稚園に〇〇くんがいた頃、よく見られた光景です。

〇〇くんは、ひとりで過ごすことを好み、1日の大半を支援員の先生と過ごしていました。でも、「1日の終わりにはクラスみんなで集まりたい」と思った担任の先生は、クラスの子ども達をつれて、園内を探すようになりました。みんなが呼んだからといって、〇〇くんはいつもクラスに戻るわけではありません。みんなでがっかりした日もありました。でも、戻ってきたら大歓迎。輪の中の〇〇くんの席に案内するのです。

みんなと一緒に同じことをしなくてはならないと考える先生だったら、〇〇くんは苦しかったでしょう。まわりの子どもも〇〇くんを責めたことでしょう。けれど、先生も子どもたちも、みんな同じでなくていいし、みんなで過ごす楽しさもある、ということをよくわかっていました。というよりも、〇〇くんとその生活の中で、そのことに気づいたのかもしれない。

昨年、障害者差別解消法が施行されました。どの職場でも合理的配慮の提供について議論がなされているでしょう。合理的配慮は個別に提供されるものですから、臨床発達心理士が持つ個に対するアセスメントや支援計画作成等の専門性に期待が寄せられていることでしょう。

障害のある人、本人に対する支援を充実させていくことの重要性は言うまでもありません。同時に、障害のある人の周囲他者（他児）への着目やはたらきかけも大切にしたいと考えます。

上の例では、〇〇くんにとってクラスから離れて活動することも必要なことだということ、大好きな音楽遊びならみんなの輪の中に入りやすいこと、〇〇くんにかかわるときは正面から近寄るよりも横に並ぶ方がよいことなどを、担任の先生が子どもに繰り返し伝えていました。これらは、いわば〇〇くんの合理的配慮です。その合理的配慮を、どれだけまわりの子ども達にわかりやすく、しかも、プラスの印象で伝えていくかが重要でしょう。

個に対する配慮とともに、障害のある人の合理的配慮を理解して、合理的配慮が提供されることが当然であると認識できる子ども達を育てていくことを大切にしていきたいと思えます。それが、私たちがめざす共生社会の担い手を育てることにつながるのだと思えます。

神奈川支部研修会報告



2016年12月11日(日)に、2016年度第2回資格更新研修会を鎌倉女子大学において実施しました。

講演

テーマ：「ネット依存症の現状と予防について」

講師：樋口 進氏（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター院長）

初めに依存症の概要説明があり、次いでネット依存の現状についてお話がありました。現在世界中で話題となっているネット依存ですが、日本、韓国、中国といった東アジアの国々で特に多くみられるそうです。久里浜医療センターを受診される方の特徴として、中学生から大学生が全体の70～80%を占めますが、徐々に低年齢化している傾向があるとのことでした。また、男女比は9：1で圧倒的に男性が多いようですが、性別によって依存の傾向に違いがあるそうで、男性はゲーム、女性はSNSへの依存が多いとのことでした。ネット依存に陥りやすい背景として、広汎性発達障害やADHDが関係していることが世界の様々な地域での研究から明らかになってきているそうです。また、大多数の方に睡眠障害や家庭内暴力があり、家族の将来に対する不安は非常に強いものがあるとのことでした。

続いてネット依存の治療についてお話がありました。ネット依存の治療は、本人が自分の意志で行動を変えていけるように援助していくことが重要とのことでした。治療は、心理社会的治療と薬物治療の両側面から、ネット依存そのものへの治療と合併精神障害に対する治療を行っていくそうです。久里浜医療センターでは初診後、ネット依存の背景要因を明らかにするための評価や再診を経て、カウンセリングやデイケアであるNew Identity Programへの導入、入院治療を進めていくそうです。また、自然を体験したり、対人能力を高めたりしていくために、Self-Discovery Campを行っており、キャンプでは参加者一人につき大学生一人がメンターとしてつきながら進めていくそうです。2名の事例についてもご紹介いただきました。

最後にネット依存を予防していくための取り組みについてお話がありました。ネット依存を予防するためのルール作りのポイントとして、機器は保護者が管理し一定の条件をもって子どもに貸し出すこと、子どもの意向を尊重したルールを親子一緒に作ること、使用場所をリビングなど家族の目が届く場所に限定すること、ルールを書面に残すこと、子どもだけでなく家族も一緒にルールを守っていくことがポイントとのことでした。依存が進行した場合は、機器を取りあげることで暴力を誘発することがあるそうです。そのため、ネット以外の時間を増やししながら、本人の興味をネット以外のところへ向けていくことが重要で、その際に友人や先生の助言が有効になることが多いとのことでした。

現在、話題になっているネット依存について、事例を交えながらわかりやすく概要や治療についてご説明いただき、非常に有意義な研修となりました。

（文責：須田恭平）

※講師の樋口先生から、内容理解の一助として追加資料をご提供いただきました。神奈川支部HPに2月末まで掲載しますので、ご参照ください。

講演会の様子



樋口 進氏



第2回 資格更新研修会 アンケート結果

アンケートにご協力いただきありがとうございました。回収率は74.3%でした（前回53%）。ご意見・ご感想は一部を抜粋させていただきました。

◆ 樋口進先生講演「ネット依存症の現状と予防」について

- ・非常に勉強になりました。課題、対応など、臨床に基づいており、参考になりました。ケースも具体例が多く、深刻さも含めイメージしやすかったです。
- ・10年ほど前から、スマホに夢中になっているお母さんたちの様子が気になっていました。
- ・今日的话题をありがとうございました。対象者が52万人ということに衝撃を受けました。
- ・ネット使用時間が長い通級の子もたちが多く目にします。保護者にも伝えていきたいです。
- ・支援者として、「指導する」よりも「今の状態を聴く」という関わり方のポイントが心に残りました。
- ・先生が、患者の気持ちを大切に聴いていらっしゃるということに感動しました。
- ・不登校の子や発達障害の子がゲームにはまっているケースが多々あり講義が参考になりました。ネット依存の脳発達への影響についてももう少し詳しく伺いたいです。
- ・中高の保護者からの相談にはネット使用に関するものも多いので参考になりました。「使い始めでのルール」や対応の大切さを感じました。
- ・幼児期の子どもがスマホ片手にゲームをしている話をよく聞きます。保育所から帰る車の中や食事中、寝る前など手放せない様子・・・危険性について伝えたいと思いました。
- ・人との関わり、生身の人間とのかかわりの大事さがよく分かりました。第三者が入って風を入れる、褒める、ということもわかりました。影響についてまだ実証されていないという怖さもわかりました。
- ・仕事で接するお子さんはハイリスクだと思うので、知っておくべき知識だと思います。
- ・嗜癖と依存の違い、脳神経との関連など、知ることができて良かったです。
- ・ネット依存からの脳のダメージを具体的に知ることができました。

◆ 今後の研修会で取り上げてほしいテーマやご講演いただきたい講師など

- ・愛着障害について ・発達検査、心理検査などについて
- ・運動アセスメントや発達との関連
- ・依存、非行、犯罪心理など社会状況に合わせ知っておくべきテーマ
- ・対人援助領域で働く女性へのサポート・支援について
- ・障害者差別防止法について詳しく知りたい、またやまゆり園の事件のその後、 その他
⇒ここ2,3年の研修テーマと突き合わせつつタイムリーで要望の高いテーマを取り上げていきます。

◆ アンケート回答者の割合

- ・学校教育現場 33% ・相談所・保健所等 22% ・療育施設や病院現場 20% ・育児・保育現場 5% ・大学・研究所のクリニックや研究機関 5% ・児童福祉施設等 3%
- ・企業 2.5% ・育休中 2.5% ・成人・老人施設等 1.25% ・NPO法人 1.25% ・不明 5%

(研修担当より) 講演へのご感想や、運営に関する激励やご指摘など、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

(文責：齋藤政子)

職場紹介

吉永節子（臨床発達心理士スーパーバイザー）

学校 SC・区役所子育てカウンセラー・巡回相談心理士

「東京都特別支援教育サポートルーム巡回相談心理士の仕事」 ～活動の広がり・期待される役割と柔軟性～

私が、従事している東京都の「巡回相談心理士」の仕事をご紹介します。東京都には、従来型通級指導教室に替わり校内における特別支援教育事業で「サポートルーム」が設置されました。合理的配慮に基づいた指導実現のために、臨床発達心理士等が年間 40 時間小学校に派遣されています。昨年度は、600 校で実施され、今年も 300 名程度募集予定です。興味があり、志望したいと思われる方は、是非エントリーをしてみてもいいでしょう。（詳細は、東京都特別支援教育サポートルーム巡回相談心理士で検索しご確認ください。）この業務に携わる場合に必要なのは、エビデンスに基づくアセスメント（行動観察と WISC などの読み取り）とアカウンタビリティです。また、トップダウン的な視点ではなくチームの一員としての専門的知見を伝え、ニーズに焦点化した助言を行う事が重要です。現在、私は複数の異なる職場（東京都大田区の小中スクールカウンセラー、横浜市南区役所子ども家庭支援課で乳幼児をもつ母親対象のカウンセリング）で働いていますが、「ここでは通用するが、違う場所では役割を果たせない」と感じることもあるので、自身ができる事できない事を自覚しつつ、求められる役割を意識して柔軟に活動し、「巡回相談心理士」として適切な助言ができるよう意識して活動しています。

また、私の「巡回相談心理士」としての基盤は、神奈川県警の少年相談・横須賀市や葉山町教育研究所など公的機関での相談・横浜市教育総合相談センターが始めた日本初の小学校滞在型カウンセラー等で培ってきたものです。40 数年相談の仕事に関わっている中で、常に感じるのは時代の変化に伴い、相談者やその機関のニーズが異なっている事です。経験者というだけでは通用しない事などから、常に学びの姿勢が大切と痛感しています。また、心理職は、傾聴と共感はベースですが、対象者の気持ちに寄り添い過ぎてしまう傾向にあるとよく言われます。私達の役割は、相談者が置かれた環境や人との関係性の中で、いかに自尊感情を維持しつつ自己実現できるように支援をしていくことではないかと考えます。私は、不登校問題が全国で最も多かった時代に教育研究所に所属し、引きこもりの子どもと関わる一方で、不登校対策として学校を巡回し調査や研修啓発など行っていました。当時 50 歳半ばでしたが、経験と勘に頼ることでの自信の無さもあり、働きながら大学院に進学して児童発達学を専攻し有効な支援法を研究しました。皆さんも学びの必要性を意識し、臨床発達心理士会の研修をはじめ様々な研修会に参加するなどして、「求められる役割を意識して柔軟に活動する力」をつけ、「巡回相談心理士」として活躍されてみてはいかがでしょうか。

「職場紹介」大募集！

このコーナーで職場紹介をしてくださる方を募集しています。
神奈川支部に所属されている方であれば、掲載させていただきます。
医療、福祉、教育、司法などお互いを知り、効果的なネットワークを構築していくためにも、ぜひご協力をお願いします。

<連絡先>

神奈川支部 広報担当宛

e-mail : jacdpkanagawa@gmail.com



全国大会報告

第12回日本臨床発達心理士会全国大会（大阪大会；2016年9月10～11日）に実施された「臨床発達心理士会・支部活動報告会ー我が支部の特色ー」に、神奈川支部を代表して参加してきました。

当日は、各支部の活動がポスターで報告され、情報交換の良い機会となりました。また多くの支部で“名産お菓子”等が並べられ、たくさんの方が立ち寄ってご覧になっていました。ここで得られた情報を今後の神奈川支部の活動に活かしていければと思います。

（文責：白馬 智美）



お知らせ

■ 神奈川支部 2017年度第1回資格更新研修会の予定

◆日 時：2017年5月21日（日）13：00～16：50

○13：00～16：00 講演会

- ・テーマ：「親子になる」日々を支え続けるー子どもの養子縁組支援の現場からー
- ・講師：岩崎美恵子氏（公益社団法人家庭養護促進協会 理事）（1ポイント）（予定）

○16：00～16：50 神奈川支部 総会

◆会 場：ウィリング横浜（横浜市港南区上大岡西1-6-1 ゆめおおおかオフィスタワー内）

* 詳細が決まりましたら神奈川支部ホームページ、SOLTI、郵送（神奈川支部会員のみ）にて、お知らせいたします。

<編集後記>

今回のニューズレターは、神奈川支部2016年度第2回資格更新研修会を中心に報告いたしました。年も改まり、世界的にもアメリカでのトランプ政権発足など大きな変化が生まれています。私たちの周りでも新たな動きが続々と出ており、見逃せないといった感じの今日この頃です。今回は「東京都特別支援教育サポートルーム巡回相談心理士」に関する話題なども投稿していただきました。ニューズレターでは、今後も皆様に役立つ様々な情報等を随時お伝えしていきますので、よろしくお願いいたします。

また、お気づきの点、ご意見・ご感想等ございましたら、アドレスにご連絡いただくと助かります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

インフルエンザも流行りだし、立春を過ぎたとはいえ、まだ寒い日が続きますが、皆様ご自愛ください。
（広報担当 橋爪美津子・佐藤朋実）